様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２３ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2010～2013
課題番号：２２５００９６０

研究課題名（和文）現代の生政治学的視座から見た生命倫理学の政治的・哲学的射程をめぐる研究

研究課題名（英文）Study on the political and philosophical range of the bioethics under the scope of contemporary bio-politics

研究代表者
金森　修（KANAMORI, Osamu）

東京大学・大学院情報学環・教授

研究者番号：９０１９２５４１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,300,000円、（間接経費）　990,000円

研究成果の概要（和文）：フーコーが1970年代に模索的に使用した生政治・生権力という概念は、その後生物学・医学の急速な進展による日常生活の変化に伴い、新たな含意を獲得するに至った。本研究はその事実を背景に、アメリカ的な生命倫理学をメタ的に対象化して現代的な特質や偏向を探るという目標を掲げた。当初は比較的理論的な問題設定、クローンや臓器移植などの問題群への注視を想定していた。
だがこの研究期間中思いがけずに福島第一原発の大事故が勃発したので、放射線障害の多寡や、それを巡る日本社会の多様な政治的・思想的発言の分析に思いの他重点が置かれることになった。人間の生命をどうしても二次的に捉えがちな我が国の政治風土の剔抉ができた。

研究成果の概要（英文）：The concept of bio-politics and bio-power that M.Foucault had coined in 1970's proved to become more important after his death in 1984, as the rapid development of biology and medicine have changed radically the quotidian life of people. This study aims to analyze the major characteristics or some political tendencies of the American bioethics under the scope of the two concepts of bio-politics and bio-power. At the beginning, I have intended to research closer for the political connotation of the bioethical problems such as cloning or organ transplantation etc. But unexpectedly, the Fukushima nuclear power plant accident occurred afte the earthquake in March 2011. So I changed the major theme of this study, and tried to analyze the social discourse on the possible harm of radiation damage.
And I demonstrate the fact that the Japanese society tends to continue to marginalize the value of health and the life of people so as to prioritize the short-time range economic prosperity.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学社会学・科学技術史

キーワード：生政治・生権力　生命倫理学　クローン　臓器移植　フーコー　福島第一原発事故　放射線障害

１．研究開始当初の背景

私はもともとフランス系の認識論、エピステモロジーの専門家として長く研究生活を続けてきた。それは、個別科学のそれぞれの時代に於ける重要概念を科学史的に回顧し、その概念形成と消長の様態を哲学的・認識論的に反省するというものだった。
ただ、その極めて理論的性格の強いものから、より現代社会に直結した問題構制に移行する必要性も感じていた。その際、フーコーの生政治・生権力概念が一つの導きとなり、それによって現代のアメリカ生命倫理学の政治的特性を探ろうとしたのである。

２．研究の目的

上記の背景に基づき、当初はアメリカ生命倫理学の中でもクローンとか、臓器移植のような重要問題群における、社会的・政治的特性を剔抉することを主要目標として設定した。ただ、本研究の場合、研究期間中に思いがけず福島第一原発の事故が勃発したということがあった。その後の放射線障害の潜在的可能性についての科学者の言動や、政治的動向を探る過程で、これは或る意味でアメリカ生命倫理学よりも更にわれわれの社会に直結した生政治的文脈を露呈するものだという認識に至った。よって、研究期間後半部においては、放射線障害を巡る言説の生政治的分析が徐々に重要性を占めることになった。

３．研究の方法

生政治・生権力論が現代世界で流行する契機となったフーコーの作業、並びに、その仕事を彼が 1984 年に逝去して以降、最も現代的に敷衍したアガンベンの業績をまずは詳細に検討した。その際、アガンベンのゾーエー・ビオス概念が重要なものとして浮上してきていた。
それらの作業を前提に、アメリカ生命倫理学史を彩る幾つかの重要テーマ、クローン、臓器移植、脳死、安楽死などを個別的に分析した。
ただ、上記のように、研究期間中の思いがけない原発事故勃発以降は、研究方向を若干変えて、同種の問題意識に基づきながら放射線障害を巡る言説分析をすればどのようなことがいえるのかを深く検討した。

４．研究成果

現代哲学の重要な一角を占めるアガンベンらの生政治論・生権力論の概念史をまずはまとめ上げた。
そして、アガンベンのゾーエー論から顕著に浮き彫りになる、政治的・社会的理由から来る或る種の人間たちのはじき飛ばしを一種の〈境界人間論〉として主題化するという可能性に気づいた。それによって、まずはユダヤの特殊な泥人形ゴーレムを扱う小著を書き、ついで〈人間以下の生物〉一般としての動物と人間との間の関係を巡る一種の動物哲学を書いた。
同時に、エピステモロジーそのもののより本格的な導入をし、一種科学思想史的な作業を深めた。それらの成果は、主として編著の形をとり、幾つかの浩瀚な書物として結晶した。
さらに、上記にも述べたように、福島原発事故以降の我が国の言説分析や政治動向の分析を、書籍ではなく論文の形ながら幾つかの論攷にまとめ、社会に公表し、日本社会がどうしても陥りがちな生命軽視の傾向に、私なりのやり方で警鐘を鳴らした。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１８件）

１）Osamu Kanamori, "L'Evolution creatrice et le neo-lamarckisme"
Arnaud Francois ed., ***L'Evolution creatrice de Bergson***, Paris: Vrin, Septembre 2010, pp.111-123.

２）金森修「病と死の傍の賢治」
『死生学研究』、「東アジアの死生学へII」、東京大学大学院人文社会系研究科、２０１０年１１月３０日、pp.56-71. 討論、pp.72-74.

３）金森修「〈人文知〉の不可還元性のために」
『研究室紀要』（東京大学大学院教育学研究科・基礎教育学研究室）、第３７号、２０１１年６月３０日、pp.11-20.

４）Osamu Kanamori, "After the Catastrophe---- Rethinking the Possibility of Breaking with Nuclear Power"
Peace from Disasters, Proceedings of HiPec International Peacebuilding Conference 2011, September 18-19, 2011, Hiroshima International Conference Hall, pp.87-92.

５）金森修「科学技術と環境倫理」

『環境情報科学』 vol.40, no.3, ２０１１年１１月２８日、pp.4-8.

６）金森修「公共性の黄昏」
『現代思想』vol.39, no.18, ２０１１年１２月１日、pp.136-150.

７）Osamu Kanamori, "Fixation de l'instantaneite de la forme"
Shin Abiko, Hisashi Fujita & Naoki Sugiyama eds., ***Disseminations de L'evolution creatrice de Bergson***, Olms, coll. "Europaea memoria", march 2012, pp. 137-150.

８）金森修 「〈放射能国家〉の生政治」
檜垣立哉編『生命と倫理の原理論』大阪大学出版会、２０１２年３月３０日、pp.85-108.

９）金森修「自律的市民の〈叛乱〉のために」
『Kototoi』Vol.002, ２０１２年３月３１日、pp. 63-75.

１０）金森修「愛するゴーレム」
大場昌子・佐川和茂・坂野明子・伊達雅彦編『ゴーレムの表象』、南雲堂、２０１３年１月２５日、pp.83-115.

１１）金森修「合成生物の〈生政治学〉」
『思想』岩波書店、no.1066 、２０１３年２月５日、pp.283-302.

１２）金森修 「医療倫理の〈事務化〉に抗して」
日本蘇生学会編『蘇生』第３２巻第１号、２０１３年３月２８日、pp.1-6.

１３）金森修「認識論とその外部――汚染と交歓」
日本哲学会編『哲学』第６４号、２０１３年４月１日、pp.25-41.

１４）金森修「３．１１の科学思想史的含意」
サントリー文化財団・アステイオン編集委員会編『アステイオン』第７８号、２０１３年５月２３日、pp.79-94.

１５）金森修「『人間の尊厳』は解体すべき概念か――動物・理性・霊魂」
小松美彦『生を肯定する』第四章、青土社、２０１３年８月２０日、pp.179-206.

１６）金森修「専門知と教養知の境域」
『近代教育フォーラム』第２２号、２０１３年９月１４日、pp.135-149.

１７）金森修「〈変質した科学〉の時代の宗教」
『宗教研究』第８７巻、３７７ 第２輯、２０１３年９月３０日、pp.81-106.

１８）Osamu Kanamori,"Une lecture materielle d'un poete japonais: Kenji Miyazawa"
Revue de Synthese, Tome 134, 6e serie, No.3, 2013, septembre 2013, pp.373-389.

〔学会発表〕（計１４　件）
１）金森修「あなたは臓器を提供しますか？――臓器移植の是非を問う――」
まちだ市民大学 HATS、人間科学講座、２０１０年５月３１日

２）金森修「〈いのち〉のありか」
ノートルダム清心女子大学、国際教育フォーラム講演、２０１０年７月２４日

３）金森修「芸術的創造と反自然主義」
東京芸術大学大学院美術研究科、特別講演、２０１０年１１月２９日

４）金森修「亜人ゴーレム」
シンポジウム『ゴーレムの表象――ユダヤの

人造人間と現代――』、基調報告、日本女子大学目白キャンパス、２０１１年2月１９日

５）金森修「臨死の人間学的構造の根源性について」
第１６回日本緩和医療学会学術大会シンポジウム『緩和ケアにおける EBM の意義と限界――総合的人間学としての緩和医療学へ――』、ホテル・ロイトン札幌、２０１１年７月２９日

６）金森修「合評会　VOL　05 エピステモロジー：知の未来のために」
大阪大学人間科学研究科、２０１１年８月２６日

７）Osamu Kanamori,"After the Catastrophe ---- Rethinking the Possibility of Breaking with Nuclear Power"
『HiPeC 国際平和構築会議 2011』、広島国際会議場、２０１１年9月１８日

８）金森修「専門知と教養知の境域」
第２２回教育思想史学会、東京大学本郷キャンパス、２０１２年１０月１４日

９）金森修「誰のための生命倫理なのか」
『日本蘇生学会』第３１回、講演、ピアザ淡海、２０１２年１１月２３日

１０）金森修　「原発事故と科学思想史」
第６１回湘南科学史懇話会、藤沢市労働会館、２０１３年1月１９日

１１）金森修「認識論とその外部 ――　汚染と交歓」
日本哲学会、第７２回大会、シンポジウム「知識・価値・社会――認識論を問い直す」での発表、お茶の水女子大学、2013 年 5 月 11 日

１２）金森修「〈衰退する社会〉の中の社会倫理」
東京大学公開講座『変わる／変える　２０年後の世界：２０年後の超高齢社会』、東京大学、２０１３年9月２９日

１３）金森修　「〈反自然性〉の定位としての尊厳」
シンポジウム『いまの時代、尊厳を問い直す』日本生命倫理学会、第２５回年次大会、東京大学、２０１３年１２月1日

１４）金森修「一九世紀ヨーロッパにおける人工世界の表象　――シャルル・バルバラの『ウィティントン少佐』を中心に」
『科学の知と文学・芸術の想像力――ドイツ語圏世紀転換期の文化についての総合的 研究』主催、東京大学教養学部、２０１４年３月１７日

〔図書〕（計８件）
１）金森修『科学思想史』編著
勁草書房、２０１０年7月３０日、pp.1-507 + i-vii, i-xxviii.

２）金森修　『ゴーレムの生命論』単著
平凡社、平凡社新書、２０１０年１０月１５日、pp.1-224.

３）金森修・近藤和敬・森元斎『VOL 05　特集：エピステモロジー』共編著
以文社、２０１１年6月３０日、pp.1-277.

４）金森修　『昭和前期の科学思想史』編著
勁草書房、２０１１年１０月２０日、pp.1-420 + i-vii, i-lvii.

５）金森修　『動物に魂はあるのか』単著
中央公論新社、中公新書、２０１２年8月２５日、pp.1-262.

６）金森修『合理性の考古学』編著
東京大学出版会、２０１２年１２月6日、pp.1-525 + 1-5, 1-17, i-iv.

７）金森修『エピステモロジー ――２０世紀のフランス科学思想史』編著
慶應義塾大学出版会、　２０１３年1月３０日、　pp.1-490 +1-16.

８）金森修・粟屋剛『生命倫理のフロンティア』共編著

丸善出版、２０１３年１月３１日、pp.1-212, i-xiii.

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~waskana （金森修研究室ホームページ）

６．研究組織
(1)研究代表者
金森修
東京大学大学院情報学環、教授
（Osamu KANAMORI）
研究者番号：９０１９２５４１

(2)研究分担者
単独研究のため、分担者はいない
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
単独研究のため、連携研究者もいない
（　　）

研究者番号：